

交通事故多発期迎え

安全運転の徹底を

今年3月上旬にオホーツク管内を襲った暴風雪の被害は、記憶に新しいところです。冬期間は、夏の暴風雨と同様に暴風雪という災害も発生し、道路状況や視界が悪化します。

暴風雪情報があった場合、「不要不急」の外出は避け、外出している場合は、気象情報や道路状況などを十分に把握しながら対応することが重要です。

また、車の運転中に地吹雪や激しい雪に見舞われた場合、対向車が見えなくなります。道路脇の雪山から突然車や歩行者が出てくることもあり「見えないは、危ない」を念頭に、徐行や安全確認徹底などの注意が必要です。

暴風雪時は

情報収集で対応を

吹雪に備えて

もしもに備えて、次のことを心がけておきましょう。

- 冬道の必需品
防寒着・長靴・手袋・スコップ・けん引ロープなど
- 出発前は、テレビ、ラジオ、インターネットなどで道路情報や気象情報に注意を払う
- もし吹雪で動けなくなったら
雪でマフラーが埋まると、排気ガスが車内に逆流し、一酸化炭素中毒の危険性がありますので、エンジンを切ってください。
また、エンジンをかける場合は、マフラー付近をこまめに除雪することが重要です。

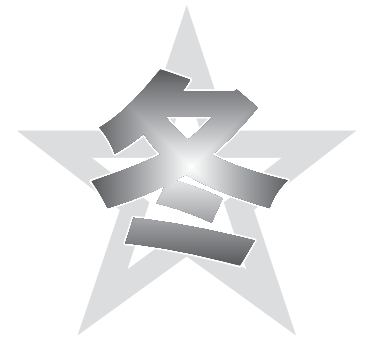
冬道運転の心得

- 黒っぽく見える路面の「ブラックアイスバーン」に注意
- ブレーキは夏場の2倍以上手前から
- 緩い坂道も油断しない。カーブ手前で減速しましょう
- 早めの出発や余裕の運行計画などで無理のないスピードを保持する
- 横断歩道も路面が滑りやすいので、歩行者は安全確認も含めて、ゆっくりと歩いて横断するなど注意することはたくさんあります。
冬の交通安全は、夏以上に細心の注意と情報収集が必要です。

積雪寒冷地の訓子府町にとって、冬道は、さまざまな場所で交通事故発生の危険が潜んでいます。

ドライバーは、夏以上に安全運転を、また、歩行者も周囲の状況に十分気を配って歩くことを心がけましょう。

また、防寒着など冬道運転のための必需品を備えておくほか、暴風雪時には気象情報に注意し、外出を控えるようにしましょう。



道路に危険潜む 雪と氷の季節

冬道の危険と事故防止

今年1月から11月15日までの町内での交通事故発生状況は、物損事故が数件、人身事故はゼロとなっていますが、町や関係機関では、「ストップ・ザ・交通事故」を掲げ、より一層の交通安全意識の高揚、交通事故の根絶に向けて各種対策などに取り組んでいるところです。

北海道では冬期間に人身事故が多く発生します。その大きな理由として路面が滑りやすくなることです。

ドライバーは、常に「道路は滑る」ということを頭に入れると同時に、気温や交通量、わだちなどの道路形状といった滑りやすさの状況を考慮して走行することが大切です。

交差点での走行は夏場と同様に一時停止を守り、左右の安全確認を徹底することや、優先道路であっても徐行することです。

さらに冬期間は、吹雪や雪山による死角など視界不良の交差点も現れますので、夏場以上に安全確認を徹底することが必要です。

